別紙２

異文化理解促進プログラム協力講師　自己紹介

※公開可能な内容のみ記載ください。



名前：護城　恵昭（もりき　しげあき）
職業：国立大学事務員
所属：コアファシリティマネジメントセンター
専門分野：財務・ＩＴ
日本語レベル：ネイティブ
英語レベル：中上級（TOEIC755）

出身国や外国で過ごした経験について教えてください：
・学生時代に米国で１年間過ごしました。日本でも大人気のディズニーがあるフロリダ州です。
・北京五輪の翌年から１０年間中国山東省で日本語講師をしました。中国のIT技術の発展を目の当たりにしてきました。

広島の児童・生徒たちにどんなことを学んでほしいですか：
・海外から見た日本の素晴らしさ
・将来国際的な仕事をするにおいて英語とITは必要不可欠であること。

私は広島県で生まれ育ち、二十歳の時に東京へ出ました。その後、アメリカでの留学を経験し、中国では約10年間にわたり日本語教師として勤務しました。
海外での生活を通じて感じたのは、「当たり前だと思っていたことが国によって全く違う」ということです。言葉だけでなく、考え方や価値観、働き方にも大きな違いがあります。一方で、日本の文化や礼儀正しさ、人を思いやる気持ちは海外でも高く評価されていることを知りました。
現在は国立大学で事務職として勤務し、財務やITに関する業務に携わっています。英語や中国語を使う機会もあり、海外で得た経験が今の仕事にも活かされています。
児童・生徒の皆さんには、海外を身近に感じるとともに、「世界にはさまざまな考え方があること」を知ってほしいと思います。そして、語学だけでなく、ITやコミュニケーション能力も将来世界で活躍するための大切な力であることをお伝えしたいと考えています。